

## 普及情報

### 放牧体系の導入による繁殖和牛産地の強化

繁殖和牛経営において、放牧は作業の省力化及び飼料の低コスト化を図る上で非常に重要な技術の1つである。美方郡では、1985年以降一戸当たりの飼養頭数の増加に伴って放牧技術が導入された。約20年経った現在も、放牧への取り組みは増加している。

#### 1 論より証拠

放牧の推進を始めた頃、農家は経営的メリットを理解していても、事故の心配などから放牧に対して大きな不安を感じていた。そのため、「論より証拠」で放牧前に放牧場の植生や飲水場などの環境調査を行うとともに、放牧中は血液検査、管理巡回指導、現地検討会、飼養管理の省力化及び低コスト化調査などを行った。それによって、安心して放牧を行うことができ、経営の中で有効な技術であることを証明することができた。

その後は、美方郡の各町、農協、普及センターが一体となって大規模な放牧場だけでなく、耕作放棄田を用いた放牧の推進をし、数え切れないほどの講習会を行った。その結果、研修会の参加者は年々増加しており、農家の関心はますます高くなっている。

#### 2 放牧がなければ

1988年には、放牧面積14ha、放牧頭数44頭であったのが、2001年には222ha、435頭に増加した(図)。現在、10頭以上飼育している農家のうち95%は、放牧を実施している。また、少頭数農家においても、飼育頭数の半数以上を放牧し、大幅な省力化及び低コスト化を図っている農家も少なくない。

また、耕作放棄田を利用した放牧は地域の景観が良くなり、耕種農家や近隣の住民にも喜ばれている。放牧は、美方郡の繁殖和牛産地にとって不可欠な技

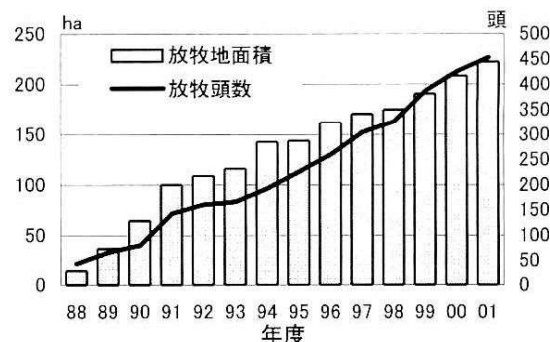


図 美方郡における放牧の推移

術になっている。

#### 3 放牧新時代に向けて

美方郡の放牧は、時代に合わせて進化してきた。以前は放牧できなかった耕作放棄田や植林地にも取り組まれるようになってきている。

放牧は、安心・安全な農産物生産方式であり、近年の消費者ニーズに応えることができる。今後は、放牧することによって、和牛に付加価値が生まれるシステムづくりを農家及び関係機関が一体となって取り組んでいきたい。

井上 智晴 (浜坂普及センター)

